

令和6年度

定期総会を開催しました。



阿地会長挨拶



中原課長様来賓挨拶

日時：令和7年3月19日(水)午後2時～ 場所：徳島市 ホテル千秋閣

来賓として徳島県農林水産部農山漁村振興課中原課長様に出席していただきました。

来賓挨拶(要旨)

土地改良区は、農地や用水路などを整備・保全する団体であり、これらの資源を次世代へ引き継ぐという、重要な役割を担っています。

全国的に農業者の高齢化、減少が進行する中、土地改良区においても同様の問題があることから、本県では、次世代を担う皆様への研修や、改良区の運営強化に向けた研究・普及啓発に取り組んでおり、そのような支援が、本県農業の持続的発展につながるものと期待しているところです。

農地の集積・集約化や施設管理の省力化は、農地や施設を守っていく上で有効な手段と考えており、県としては、「農地中間管理機構関連・農地整備事業」や「スマート農業」に資する事業を積極的に展開したいと考えています。本日は、スマート農業やICTを活用した土地改良施設の維持管理の省力化に関する講演も予定されており、皆様の今後の地域農業や土地改良区運営を考える上で、少しでもお役に立てれば幸いです。

>> 中原課長様ありがとうございました。

令和6年度活動報告

□研修会の参加

徳島県や水土里ネット主催の土地改良区役職員を対象とした研修会に会員が積極的に参加し、複式簿記会計や決算書類を活用した経営診断、男女共同参画について学習をしました。

また、あわ水土里女性の会では「中国四国水土里ネット女性の会」に参加し、これからの土地改良区の体制強化について見識を深めました。

令和7年度活動計画

- ①土地改良区事業に関する研究
- ②国・県関係機関並びに土地改良区理事長等との意見交換会
- ③会報の発行
- ④会員の拡大

令和7年度活動計画は賛成多数で承認をいただきました。令和7年度には土地改良法の改正により、新事業・制度の創設等が予定されています。関係機関と緊密に連携しながら、有用な情報提供を行い、適切に対応をしていきます。

また、「あわ水土里女性の会」との連携により、会員相互間の育成を図り、土地改良区の次世代体制の強化に積極的に取り組んでいきます。

総会の後、研修会を開催しました。

「クボタが取り組むスマート農業について」

講師：株式会社 中四国クボタ
四国担い手推進部

高松グループ長 杉本 康彦 氏

杉本様から、強い農業経営を実現する営農新技術の提案として、クボタが取り組むスマート農業について紹介をしていただきました。

講演では最近の農業をめぐる情勢の説明から始まり、農業経営を取り巻く主要課題やその解決のためのクボタの提案について説明をしていただきました。

食料・農業・農村基本法改正により、人口減少下における農業生産の方向性として、生産性の向上、付加価値の向上、環境負荷低減が位置づけられ、よりスマート農業が広がりをみせていくとのことでした。そして、スマート農業技術に適した生産方式へ転換するためのクボタの技術について紹介をしていただきました。



クボタが取り組むスマート農業について

● スマート農業技術活用促進法の制定

2024.5 食料・農業・農村基本法 改正

人口減少下における農業生産の方向性

- ・ 生産性の向上
- ・ 付加価値の向上
- ・ 環境負荷低減

上記の基本法の理念を実現するため、スマート農業技術活用促進法が制定されました。

● 身近になった高度なスマート農業

農業機械の自動化についての提案

- ・ オペレータ作業の効率化と負担の軽減
- ・ 労働生産性の向上を目指した自動農機やロボット農機の活用

- (1) 人と機械の協調作業による農業生産プロセスの変化
- (2) 農作業の自動化と精密化
- (3) ICT農機とデータ共有化による営農全体の見直し

● クボタのスマート農業技術

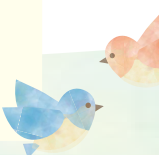
スマート農業技術

- ・ 自動操舵及び自動運転農機
- ・ ロボット田植機
- ・ 圃場水管理システム
- ・ 農業用ドローン
- ・ 食味・収量コンバイン、センシングドローン、衛星による生育診断等
- ・ 営農支援システム (KSAS)

● 営農支援システム KSAS

圃場地図や作付計画を見える化でき、**農業プロセス全体の改善**につながります。

1. 営農情報が管理できる
 - ・ 圃場の情報や作業の記録を見える化
2. 機械連携が便利に使える
 - ・ 稼働情報や位置・作物情報を見える化
3. 無料ではじめられる
4. 安心なサポート体制



「ICT(情報通信技術)を活用した土地改良施設の 維持管理の省力化 2025年版」

講師：徳島県農林水産部
農山漁村振興課 振興・創生担当

係長 岡村 昌典 氏



岡村係長様から、昨年に引き続き、ICT(情報通信技術)を活用した土地改良施設の維持管理の省力化について説明がありました。

農業分野においても、ロボット、AI、IoT、ICT等の最新技術を活用した「スマート農業」や「遠隔操作・監視やロボット技術導入による維持管理の省力化」が国内外で広がっているそうです。

今回の研修では、ICT活用の必要性や、推進にあたって必要な条件・環境整備等について説明をしていただきました。維持管理の省力化・高度化の具体例や機器の導入についても説明いただきました。

また、県内における取組事例の紹介もしていただきました。

ICT(情報通信技術)を活用した土地改良施設の維持管理の省力化

● ICTを活用した農業の省力化

ロボット、AI、IoT、ICT等の先端技術の著しい進展を背景に、農業分野においても、生産性向上に貢献する**スマート農業**が進んでいる。

日本の農村地域でも先端技術が導入され、土地改良施設の用排水管理についても、「**遠隔操作・監視やロボット技術導入による省力化**」が広まりつつある。

● 維持管理の省力化・高度化(水管理)

ICTの活用により、スマートフォン等から、水路、分水ゲートや用排水機場、ほ場の給水栓等の**監視や操作の遠隔化・自動化が可能**となる

- ・ 水管理の遠隔操作・遠隔監視
 - ・ ため池の監視
 - ・ 遠隔操作・監視できる自動給水栓・ゲート
- ▶ 管理負担・コストの低減

● 取組事例① 阿南市椿町・椿町農村RMO運営組織協議会

農林水産省の「**農山漁村振興交付金(情報通信環境整備対策)**」を活用

- ・ 囲いわなへのセンサ設置
- ・ LPWA 基地局
- ・ ほ場に設置された自動給水栓ゲート
- ・ 箱わなへのセンサ設置
- ・ マルチセンサ(ハウス内)

● 取組事例② 美波町・赤松地区農村RMO推進協議会

農林水産省の「**農山漁村振興交付金(中山間地農業推進対策のうち農村型地域運営組織(農村RMO)形成推進事業)**」を活用

- ・ ラジコン草刈機(2台)の導入
- ▶ 高齢化による作業負担増や安全性の確保といった課題の解消
- ▶ 草刈作業の効率化

役員改選について

2年の任期満了により、役員改選を行いました。
新たに幹事として桂氏が選任され、その他の役員は留任となりました。



桂 勸 / 新幹事（小松島市日開野町）

【とくしま水土里ネット次世代ネットワーク 役員名簿】

職 種	土地改良区名	役 職	氏 名
会 長	新野土地改良区	組 合 員	阿 地 建 和
副 会 長	川内土地改良区	組 合 員	加 根 敏 之
幹 事	勝浦川土地改良区	理 事	桂 勸
幹 事	土成土地改良区合同事務所	職 員	中 川 道 博
幹 事	吉野川北岸土地改良区	職 員	福 山 祥 悟
事務局長	勝浦土地改良区	職 員	中 田 佳 宏

任 期 令和7年 4月 1日 ～
 令和9年 3月 31日

職 種	土地改良区名	役 職	氏 名
顧 問	土成西部土地改良区	組 合 員	寺 井 良 仁
顧 問	板名用水土地改良区	組 合 員	東 條 政 博
顧 問	小川谷土地改良区	理 事	山 田 雅 洋



発行 / とくしま水土里ネット次世代ネットワーク 事務局

徳島市伊月町1丁目 32 番地 徳島県土地改良事業団体連合会内

電話：088-626-3211 FAX：088-655-3399 Mail-address jisedainet@tokudoren.or.jp